

## 中間処理施設が竣工

### 苫小牧グリーンアスコン

NIPPOグループ会社の苫小牧グリーンアスコン（北海道苫小牧市、藤原宏篤代表取締役）が建設していた産業廃棄物中間処理施設（がれき類破碎処理施設）が完成し、8月24日に北海道苫小牧市柏原の現地で竣工式が行われた。処理能力は1時間当たり80tと旧施設の約2倍に向上。同社は北海道産業廃棄物処分業の許可を取得しており、資源循環型社会実現のため、アスファルト廃材やコンクリート廃材を受け入れリサイクルに努める。

同社は、旧工場（苫小牧市沼ノ端）の老朽化に伴い2020年から新工場の建

全景



設工事を進め、20年11月にアスファルトプラントが先行稼働している。

今回新設した中間処理施設は、がれきの搬入路をワンプラス化するとともに、破碎装置へのがれきの投入に

スキップバケット方式を採用したことで坂路が不要となりシヨベル作業の安全性が向上した。また、設備全体を建屋で囲うことで安全性の向上や粉じん・騒音対策を行っている。

同工場は道南地区における合材製造の拠点として、さらには道央自動車道や日高自動車道へのアクセスも備えた合材供給の拠点として重要な役割と期待を担っている。アスファルトプラントは、製造能力向上を図るとともに、合材サイロ2基の新設により、大型工事への合材の大量供給が可能となった。

竣工式で藤原代表取締役は「新工場になり、お客さまの要望により応えられるようになっただけでなく、従業員も安全に効率良く作業が進められるようになった。今後も確かなものづくりを第一に業務に励んでいく」とあいさつした。



建物全景

## 苫小牧グリーンアスコン中間処理施設が竣工

NIPPO、苫小牧グリーンアスコンは24日、苫小牧市の現地で「苫小牧グリーンアスコン中間処理施設」の竣工式を開いた。新プラントは、短時間での作業処理が可能で、胆振地区の産業廃棄物の受け入れを進める。8月から業務を開始している。

関係者約20人が参加した式典では、苫小牧グリーンアスコンの藤原宏篤社長、NIPPO北海道支店の井出将哉支店長、大

### 短時間で作業処理可能

NIPPOら



玉ぐしをささげる井出支店長

和リース札幌支店の渡邊博康支店長らが玉ぐしをささげた。式典後に藤原社長は、建設に携わった関係者に感謝の意を示し、「新施設は、ほこり、騒音対策

など地域環境にも配慮されたものとなっている。引き続き社会貢献につながる事業を展開していきたい」とあいさつした。

新施設は中間処理施設・破砕1基（処理能力1時間当たり80ト）、破砕・再骨上屋（総床面積1082平方メートル）、廃材・製品ヤード3904平方メートルとなっている。設計は大和リース、三協機械、監理はMECX、施工は大和リース、三協機械、菱中建設、門脇建設が担当した。建設地は苫小牧市柏原17-17、16。敷地面積は2万5171平方メートル